

【指導事例3】「国語総合」「書くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導2

1 「国語総合」「書くこと」の指導事項と言語活動例

【指導事例2】参照

2 状況や心情の描写を取り入れて随筆を書く言語活動を通じた指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「書くこと」の領域における指導事項から設定した9事項に「言語活動例ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例には「詩歌」・「随筆」が例示されているが、ここでは「随筆」を設定した。

学習指導要領の指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「随筆を書く」という言語活動においても、「題材選定・取材・表現の工夫（指導事項ア）」・「構成（指導事項イ）」・「記述（指導事項ウ）」・「推敲・交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能である。

ただし、構成に関する指導事項イに関わるb②は論理的な文章において、客観性のある資料を用いることについての事項であるため該当しない単元もある。

また、記述に関する指導事項ウに関わるc①とc②とは、c①の主に論理的文章の記述における説明に関する指導と、c②の主に文学的文章における描写に関する指導とを分けて設定しているため単元によっては該当しない場合がある。

生徒の実態にもよるが、まず随筆などの文学的文章を書くといった言語活動を通して、主に「描写」に関する指導を計画し、これとは別の論理的文章を書く言語活動を通して主に「説明」する能力について指導し、その後を書く目的に応じて説明と描写の適切な表現の仕方を選択することについて考えさせることが適当であろう。また、読むことの領域における指導に際しても、優れた説明、描写について指導することが有効である。

実際の指導に際しては、「書くことを主とする指導には30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。（4内容の取扱い(3)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げることになる。

この単元における重点化は【資料1】のように設定することにしたが、「随筆を書く」という言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とはしない事項がある。これらにも、随筆を書く過程では欠かせない学習活動も含まれており、この単元で重点的な指導と評価を位置付けないということである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年「国語総合」の「読むこと」の領域の文学的文章を読むことについて指導する単元の後に設定すること。生徒の実態にもよるが、同じ教材による「読むこと」の単元に続く「書くこと」の単元を設定するのが効果的であるという考えによる。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと」、「指導事項ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと」、「指導事項エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」を設定すること。特に指導事項エにある優れた表現に接してその条件を考えるための指導は、単元の冒頭に置くことも有効だと考えた。

また、上記の指導事項を、「言語活動例ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の3点を考えて教材を選定するが、文学的な文章における描写について指導するためには、優れた表現に接してその条件を考え自分の表現に生かすことができる学習過程を計画するのが効果的であると考える。

ここでは、「国語総合〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(1)ア(ア)・・・伝統的な言語文化への興味・関心を広げること」、「(6)ウ(ク)我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」に関連して教科書掲載の次の教材を選定した。

教材 『国語総合 古典編』東京書籍
詩歌「万葉集，古今和歌集，新古今和歌集」

この教材にある和歌から一首を選び、伝統的な美意識について述べた随筆を書くという言語活動を通してこの単元の指導を構想する。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 随筆「現代に生きる和歌」を書こう。
- ・ 教材 詩歌「万葉集，古今和歌集，新古今和歌集」
(『国語総合 古典編』東京書籍)
- ・ 単元の目標 優れた表現に接してその条件を考え、ものの見方や感じ方を豊かにし、自分の表現に役立てること。
- ・ 単元の評価規準 (一) 現代も感じられる伝統的な美意識について述べる随筆を書くために、題材とする和歌を選択し、自分自身の体験や思索から必要な素材を取捨選択している。(a①)
(二) 表現技法を工夫して、情景，人物，心理などを描写している。(c②)
(三) 和歌の表現や内容の優れた点を分析し、随筆の表現に役立てている。(d①)
(四) 古典を素材とした随筆，小説，評論などを読んで、伝統的な美意識についての見方，感じ方，考え方を豊かにしている。(d③)
- ・ 配当時間 全3時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・ 図書館等を利用して、古典を素材とした随筆や短編小説，評論などを読み、相互に紹介し合う。	d③ 古典を素材とした随筆，小説，評論などを読んで、伝統的な美意識についての見方，感じ方，考え方を豊かにしている。
2	・ 選択した和歌から読み取ることのできる美意識についてイメージを広げ、関連のある体験や思いについて	a① 現代も感じられる伝統的な美意識について述べる随筆を書くために、題材とする和歌を選択し、自分自身の体験や思索から必要な素材を

	ワークシートに記載する。 ・和歌の表現や内容の優れた点を整理して、随筆の構想に役立てる。	取捨選択している。 d① 和歌の表現や内容の優れた点を分析し、随筆の表現に役立てている。
3	・和歌に詠まれた情景、心情を描写したり、関連のある情景、心情を描写したりするのに効果的な表現方法を工夫して 800 字程度の随筆を書く。	c② 表現技法を工夫して、情景、人物、心理などを描写している。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

(「三 単元」,「四 教材」,「五 単元の目標」,「六 単元の評価規準」,「七 指導計画」,「八 本時の目標」,「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。)

十 本時の指導

・ 3 時間中の 2 時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・単元の目標理解 ・本時の学習目標理解	①・単元の目標と言語活動について確認する。 ・随筆の素材とする和歌を選び、関連のある体験などを整理することを理解する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・「現代に生きる和歌」というテーマで 800 字程度の随筆を書くという言語活動を示す。
展開 (40分)	・和歌の分析と体験等の想起 ・表現の工夫	②・選択した和歌から読み取ることのできる美意識の特徴についてイメージを広げ、関連のある体験や思いについてワークシートに記入する。 ③・和歌の表現や内容の優れた点を整理して、随筆の構想に役立てる。	②・和歌に詠まれた価値観や発想を前単元の学習を参考にして整理させる。 【資料 2】 ・印象的な感じ方や発想からイメージを広げ、関連のある体験などをワークシートに書かせる。 ・ワークシートの記載例を示し、例に倣ってまとめさせる。 【資料 2】 ③・和歌の表現や発想などの内容のうち、随筆の文章表現に生かすものを整理させる。 【資料 2】 ・随筆のテーマを決めることが難しい場合は、前時に読んだ随筆等を参考にさせる。 ・和歌そのものを引用するか、歌意を用いるか、文中のどの位置に置くか等を工夫させる。 ★和歌に込められた美意識の特徴を読み取り、自分自身の体験等と関連付けているかをワークシートから評価する。(a①) ★和歌の表現の優れた点を文章表現に生かそうとしているかをワークシートから評価する。(d①)
終結 (5分)	・次時の予告	④・次時(3時間目)の活動を理解する。	④・次時には 800 字程度の随筆を書き、自己評価することを予告する。 【資料 3】

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例（9項目）	重 点 化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを取捨選択している。	○	・現代も感じられる伝統的な美意識について述べる随筆を書くために、題材とする和歌を選択し、自分自身の体験や思索から必要な素材を取捨選択している。
	a② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		・文学的な文章を書くための文体や語句を選んで書いている。
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	b① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。		・和歌に詠まれた出来事や感じ方と、自分自身の体験、思索や感慨の関連が分かりやすい文章の展開を工夫して書いている。
	b② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。		・該当なし
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	c① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		・出来事について説明することがらを選び、効果的な叙述の順を工夫して分かりやすく述べている。
	c② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。	○	・表現技法を工夫して、情景、人物、心理などを描写している。
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立てている。	○	・和歌の表現や内容の優れた点を分析し、随筆の表現に役立てている。
	d② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。		・現代も感じられる伝統的な美意識について述べた随筆の構想について、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。
	d③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	○	・古典を素材とした随筆、小説、評論などを読んで、伝統的な美意識についての見方、感じ方、考え方を豊かにしている。

【資料2】随筆「現代に生きる和歌」ワークシート例と記載例（2時間目）

随筆「現代に生きる和歌」 年 組氏名

1 選んだ和歌を書き、イメージなどを自由に書きなさい。

2 和歌からどのような美意識や感覚の特徴が読み取れるかを挙げなさい。	3 2の項目と関連のある自分自身の体験や思いを挙げ、随筆の素材とするものを選びなさい。

4 和歌の表現や発想の優れた点をあげ、随筆を書く際に表現の参考としなさい。

〔記載例〕随筆「現代に生きる和歌」

1 選んだ和歌を書き、イメージなどを自由に書きなさい。

⇒遠くに見えなくなる ⇒去ったものが戻ることを隠喩

⇒遠くにたなびく ⇒春には北に、秋には戻る

〔春霧 かすみて往に〕し かりがねは 今ぞ(鳴く)なる 秋霧の上に

⇒直接体験

⇒推定 ⇒姿は見えない

音、声によって知る

2 和歌からどのような美意識や感覚の特徴が読み取れるかを挙げなさい。	3 2の項目と関連のある自分自身の体験や思いを挙げ、随筆の素材とするものを選びなさい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の音から季節の移ろいを感じ取る細やかな感覚 ・去って行ったものが再び戻ってくることを待つ気持の豊かさ ・季節によって「霧」と「霽」を区別する季節感 ・雁を人に例えて待ちわびる気持を表現する婉曲さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩は「鉄砲、鉄砲」と鳴くのだと聞いて以来、鳩の鳴き声があると大丈夫だよと話しかけたくなる。 ・虫や鳥の声に言葉をあてはめることを「聞きなし」というと聞いた。 ・音楽を聴くと何となく曲によって決まった景色や色を連想する。 ・夏の合宿でウグイスの声を聞いて何だか変な気がした。 ・毎年ツバメが自宅の車庫に巣を掛けるが、冬にこの巣を見ると翌年の春には自分はどんな生活をしているかなと思うことがある。 ・雨は夏には関東、春や秋は関西の方がいい音がするという人がいたが、私は春の雨というと学校を連想し、夏の夕立は自宅を思い浮かべる。人それぞれに決まったイメージがあるのだと思う。 ・受験生向けのお菓子が桜の模様がついていたり、合格することを「サクラサク」と言ったり、桜には共通のイメージをもつ人が多い。

4 和歌の表現や発想の優れた点をあげ、随筆を書く際に表現の参考としなさい。

- ・渡り鳥を詠むことで、季節の推移や繰り返しを感じさせている。
- ・ほんやりとした印象のある霞や霧を詠むことで、はっきりしない季節の気配を感じていることを表現している。
- ・「ぞ・・・なる」という係り結びの強調表現で、待ちわびている気持ちを表現している。
- ・倒置法によって、待ちわびている気持ちを強調して表現している。
- ・季節の変化だけでなく全体を隠喩として理解することもできる。

【資料3】随筆「現代に生きる和歌」自己評価表例（3時間目）

随筆「現代に生きる和歌」自己評価表 年 組 番氏名

* 随筆執筆を振り返って自己評価しなさい。

評価項目	A	B	C	得点
①和歌に表現された美意識の特徴を考えることができた。				
②和歌に関連のある体験や思いを随筆に書くことができた。				
③表現技法を工夫して描写することができた。				
④随筆に和歌の表現や発想を生かすことができた。				
⑤伝統的な価値観や美意識についての理解が広がった。				
(点数換算) A : 5点 B : 3点 C : 1点				/50

* 和歌の表現や発想を随筆執筆にどのように生かしたのかを、工夫した点分かるように具体的に説明しなさい。